

平成27年度 福祉教育セミナー区域版
《地域で共に生きるための福祉》

最近の子ども事情

— 私たち大人は何ができるのか? —



～ 報告書 ～

日 時／平成28年2月1日（月）午後2時から午後4時まで

場 所／多摩市民館 3階 大会議室

参加者／61名

一 次 第 一

1 開会 司会

2 挨拶 藤原担当理事

3 趣旨説明・講師紹介 宮地委員

4 事例提供 『最近の子ども事情』

パネリスト

小林 喜代美 氏

川崎市教育委員会事務局 学校教育部 多摩区・教育担当 スクールソーシャルワーカー

小川 幸 氏

川崎市教育委員会事務局 学校教育部 多摩区・教育担当 指導主事

コーディネーター

高木 寛之 氏

公立大学法人 山梨県立大学 講師

5 グループワーク

6 まとめ・質疑応答

7 お知らせ 事務局

8 閉会 天笠委員

司会：平野・入木田委員



自己紹介

小林 喜代美 氏

川崎市教育委員会事務局学校教育部 多摩区・教育担当 スクールソーシャルワーカー

○スクールソーシャルワーカーについて

以前は精神障害の方の支援を行っていました。その中でスクールソーシャルワーカーと出会ったのがきっかけで、スクールソーシャルワーカーに転職しました。

「スクールソーシャルワーカー」と聞くと、スクールカウンセラーのような仕事をしているように思われるかもしれませんが、仕事の内容はまったく違います。スクールカウンセラーが対象児童の内面のケアをする仕事ならば、「スクールソーシャルワーカー」は、対象児童が自分の力で生活していけるように環境を整えることで支援をしていく仕事です。分かりやすく言い換えると、児童・生徒が学校や日常生活で直面する苦しみや悩みがあった時、人と人とを繋げて課題解決の手助けをしていく仕事です。

スクールソーシャルワーカーは、川崎市では 2008 年から導入されました。

昔の子どもに関する問題は、「原因があって結果がある」という非常にシンプルな構造になっていましたが、現代の子どもを取り巻く環境の背景には、学校だけでなく家庭などの学校外の問題が原因となっている等、複雑になっているケースも多いです。問題が複雑になったことにより、自分自身だけでは問題を解決することができない人が増え、そのような場合にスクールソーシャルワーカーへ相談が来ます。

スクールソーシャルワーカーは、社会福祉士や精神保健福祉士などが就くことが多いですが、専門資格はなく、教職や福祉の経験者になる場合もあります。配置型と派遣型があり、配置型は配属された学校の職員として勤務します。川崎市はもう一方の派遣型となっており、教育委員会を窓口として、校長経由で依頼のあった学校に派遣されて活動します。川崎市内では川崎区に2名、その他の区は1名ずつ配置されているので、多摩区は私1人で担当しています。

実際の相談の流れや事例検討は後程お話いたします。



小川 幸 氏

川崎市教育委員会事務局 学校教育部 多摩区・教育担当 指導主事

○教育担当とは？

「教育担当」という言葉は、皆さまには馴染みが無く、分かりづらいかと思っておりますので、簡単に説明させていただきます。川崎市では各区に「教育担当」という立場の職員が配置されており、主な業務は関係機関と連携をはかりながら、学校を支援したり、訪問して学校の様子を拝見したりします。また、経験が浅い先生や多摩区に異動された先生を対象に、研修会を開いたり助言をしたりすることもあります。



○学校の独自の取組み



多摩区では、地域と学校が連携して様々な取組みを行っています。取組みの一つの例としては、小学校低学年で地域の高齢者から昔遊びを教わっています。そして、高齢者から昔遊びを教わった低学年の児童たちが、地域の保育園や幼稚園の園児に昔遊びを教える、という取組みを行っています。その他、地域の方から戦争体験のお話を聞いたり、多摩区で生産が盛んである梨やのらぼう菜の収穫体験にご協力いただいたりしています。

○学校問題

学校関係問題で、近年急増している問題の一つが、SNSトラブル(インターネット関係)です。これは、近年急速に携帯電話やインターネットが普及したことが要因の一つと言えます。特に、平成 24 年度頃から SNS でのトラブルが増えています。具体的にはメールで悪口を言われる、LINE (SNS の一つ)でのグループ外し、SNS 以外ではゲーム依存等が挙げられます。

いじめに関しては、年々学校でのいじめ認知数が増加しており、いじめの件数自体も増えていますが、そのうち 9 割が解決しているため、一概にはいじめが増えているとは言えません。

また、不登校の件数については、少し古いデータとなりますが、平成 26 年度の川崎市内の小学校で 271 人、中学校で 1003 人となっています。前年度に比べると中学校は減少し、小学校は増加しています。不登校の原因としては、児童生徒自身の情緒の乱れや無気力、その他家庭環境が影響していることもあります。

このように様々な問題がある中で、学校では登校支援に力を入れています。子どもが不登校になる前に、事前に対策を行うことで不登校の防止に努めています。



事例提供

○事例概要

対 象 : 小学生 女子

家 庭 環 境 : 母子家庭……母親が病気を患い、養育に課題のある家庭

児童の様子 : 学校を休みがちで、家庭との連絡が取りづらい状況



○経緯

校長先生より、教育担当へ対象児童に関する相談が入る。対象児童と保護者に意思確認し、スクールソーシャルワーカーへ依頼することになった。



スクールソーシャルワーカーが学校訪問。対象児童に関する情報収集。



関係機関の選定。※本ケースでは、対象児童のみでなく、家庭環境にも問題があったため、子ども関係の他、障害支援や生活保護支援も視野に入れた。



関係機関と連携し、情報を共有。支援会議を開催。スクールソーシャルワーカーが集めた情報を基に、必要な支援の検討。



スクールソーシャルワーカーが家庭訪問。対象児童や保護者に「どんな生活がしたいのか」「どんな思いがあるのか」等を確認。子どもと関わる上で大切にしているのは、「信頼している」ということをしっかりと伝えるようにすること。相談に来ていても、もうどうにもならないと思っている子どもが多いため、子どもの自己肯定感を大切に



対象児童が地域に居場所を見つけ、通い始めたことをきっかけに、その場所で関わった人からの暖かい眼差しや思いを感じることができ、対象の児童の様子に変化が現れた。徐々に「学校に行こうかな」「勉強しようかな」と話し始める。社会資源の開発の一つである「ご近所作り」は、専門職だけではできないことも多いため、地域の方の助けが必要になる。

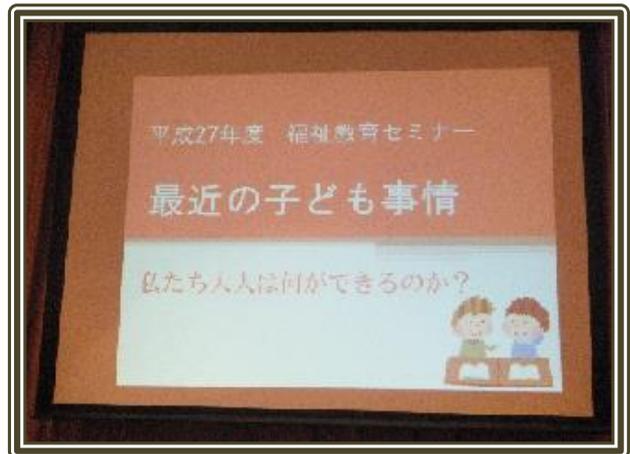




『最近の子ども事情』

💡 グループワークで話し合ってみましょう 💡

- 🌸 各地区での児童の様子は？
- 🌸 地域の方が子ども達に挨拶をすると、不審に思われるケースがあると聞くけど、どうしている？
- 🌸 地域の方に「知っている子ども」を増やしてほしい……
そのためには何が出来る？している？



★ グループワークで挙がった意見の発表 ★

○ゆりグループ

子どもにどうやって声をかけるのがよいか分からない、声をかけたら不審がられるのではないかなと思うとなかなか行動に移しにくい、という意見が多く挙がった。1回のみではなく繰り返し声をかけ、地域をパトロールすることで「この人は子どもを見守る人なんだ」と認識してもらえるようになるのではないかなと思う。また、分かりやすい名札等をつけおくと、声をかけられる側も安心するのではないだろうか。



○あさがおグループ

児童と触れ合う機会が少ないため、介入しづらい。関わろうとしても、学校からの一方通行になっていることが多い。個人情報等の関係で難しい部分もあると思うが、学校からの情報提供も必要だと思う。また、地域に自分の居場所が無いと、悪い場所に行ってしまうのではないかと、という意見も出た。



○すずらんグループ

グループ内に地域の見守りをしている人がいた。このような活動に足を運んでいるだけで、情報交換になると思う。子ども達への声かけ運動を、もっと地域に広めていきたい。今回のセミナー参加したことで、参加者の意識も少しは変わったのではないかと思う。

○あじさいグループ

南菅地区では挨拶運動をしている。この運動をすることにより、1年生の時に「学校に行きたくない」と泣いていた子が、6年生になる頃には、どこで挨拶をしても挨拶を返してくれるようになる。他の地区ではこのような活動が無く、個人で声をかけるのは不審がられるのではないかと不安、等の意見が出た。地域と学校が連携して、近所の子になら声をかけられる、という状況を作れば、不審者が入りづらい地域になるのではないかと。そのためには、子どもだけでなく高齢者への運動も必要だと思う。顔見知りの輪を広げる運動をするとよいのではないだろうか。





○ひまわりグループ

地区の子どもの様子の情報交換や、知らない子どもに挨拶をするのは不振がられるのではないか等、色々な意見が出た。時間が足りず話はまとまらなかったが、深い話のできたので本日参加することができてよかった。

○たんぽぽグループ

学校では今どのようなことが起きているのか、触れ合う機会も少ないため、なかなか知ることができない。しかし、マンションの管理人が子どもの名前を呼び、挨拶をして毎朝送り出している場所もある。子どもと関わる機会がもっと増えればいいと思う。



○すみれグループ

3つのテーマが提示されていたが、テーマに沿った話はしていない。子ども食堂や子どもの貧困等、個々に関心があることについて質問した。他のグループでも、子どもに声をかけるのは気が引ける、という声が多く挙がっていたが、もっと気楽に挨拶をしてもいいのではないかと思う。「挨拶しなきゃ」と意識すると、かえって難しくなってしまうのではないだろうか。声をかけていくことによって、地域の中に知り合いが増えていくと思うので、子どもと遊べるような場所にどんどん足を運んでほしいと思う。また、地域に子どもの居場所を作ってほしい。



○さくらグループ

最近は思い切り走ることができず、ボール等も使えない公園が増えたためか、公園で生き生きと遊んでいる子どもが少なくなったように思う。子どもと関わる機会が減っているため、大人が子どもに外での遊び方を教えてあげる機会があるといいと思う。



○うめグループ

心がけについて話した。やはり、挨拶が基本ではないかと思う。私たちが自ら進んで話しかけていくことで、無関心を無くせるのではないか。また、子ども食堂の話も出た。自分にできることを、意識してやっていくことが必要だと思う。

🐾 パネリスト・コーディネーターからのコメント 🐾

○小川氏より

地域の方々が子ども達のために色々考え、取り組んでくださっていることを大変嬉しく思います。子どもたちに声をかけること、挨拶ができる環境が大切だと思います。そのため、地域の方に学校に入ってください、色々なことを教えていただきたいです。多摩区では、寺子屋事業が中野島小や東菅小などで行っています。是非、寺子屋の先生になっていただき、子ども達に色々教えていただければと思います。寺子屋事業にご興味のある方は、教育委員会生涯学習部生涯学習推進課に問い合わせいただくと具体的な話を聞くことができます。





○小林氏より

スクールソーシャルワーカーとして仕事をしていく中で、民生委員の方に見守りを願うケースもあります。地域に居場所が無い子どもも多いため、地域の方を巻き込んで一つ一つ解決していきたいと思っています。グループ発表の際に子ども食堂の話が出ましたが、子ども食堂のような所があることにより、子ども達の居場所が増えていくので、多摩区にもそのような場所が増えるといいなと思います。近年は家庭の都合により、一人だけでご飯を食べている子どもが多いです。

○高木氏より

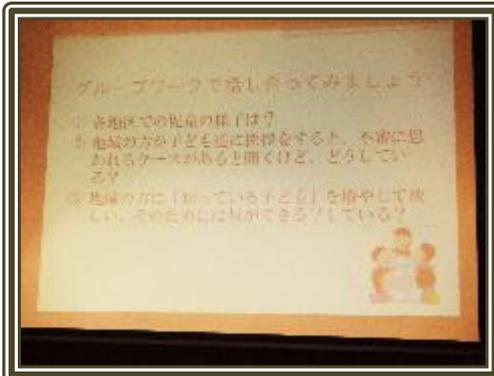
先程子ども食堂の話が出たので、子ども食堂について少し情報提供させていただきます。子ども食堂とは、ご飯を食べることだけが目的ではなく、子ども達の居場所となることが最大の目的です。「居場所」というのは、何かをしなければいけない場所ではなく、ご飯を食べた後は勉強してもいいし、遊んでもいいし、何もしなくてもいい、そんな場所です。

子ども達にとっての居場所は学校、家庭とあります。しかし、いじめや虐待等、この2つの居場所での人間関係がうまくいっていない子どももいます。子ども食堂という第3の居場所は、食事を通して地域の人々との関係性をつくる場所です。子どもは、自分が尊重される関係性の中で、自分を元気にする力を蓄えます。

ちなみに、「子ども」というと小中学生を思い浮かべがちですが、高校生も「子ども」です。小中学校の管轄は川崎市ですが、高校の管轄は県になります。管轄が違うため、別々に考えがちですが、地域の居場所作りを考える際には、小中学生だけでなく、高校生や高校を退学した子ども達等の事も視野に入れて考えていただければと思います。



当日の様子



平成27年度 福祉教育セミナー区域版 アンケート

H28.2.1

1 ご自身についてお教えてください。(○を付けてください。)

性 別		年 齢 層								
男性	女性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	無回答
6	31	0	0	0	2	10	19	8	1	21

2 所属団体があればお教えてください。(○を付けてください。)

個人	地区社協	民生委員	町会自治会	ボランティア	保育関係	学校関係	PTA	その他 (多摩区補導員)
10	12	18	5	2	0	2	0	2

3 このセミナーは、どのようにしてお知りになりましたか。(○を付けてください。)

町会回覧	町会掲示板	ホームページ	知人の紹介	団体への案内	機関窓口チラシ	情報誌たまぼら	タウンニュース	その他 (民児協、社協、学校)
9	3	0	3	20	3	0	1	5

4 今回のセミナーでの講義やグループワークを通じて感じたことや考えたこと、学んだこと、パネリストへのメッセージなどがありましたらご自由にお書きください。

- ・SSW については知りませんでした。
- ・子ども食堂について、大切なポイントを教えていただけてよかったです。ありがとうございました。
- ・集まった方の気持ちや力が何らかの形でつながると良いのかなあと思いました。
- ・地域の中での子供に対して、暖かい目を向けている方達がたくさんいることを感じました。
- ・スクールソーシャルワーカーさんのお話はすごく良かったと思います。
- ・地域の人と話ができて良かった。
- ・自分が入ったグループで話し合いのテーマが、子どもの貧困、学習支援について結構意見が出ており、やはり子どもの居場所、行き場のない者など気軽に立ち寄れる場所があるといいなと思っている人が結構いるなと思いました。
- ・いろいろな方のお話が聞けたこと、大変良い機会でした。ただ役所などはそれぞれ任せるという考えが多いのかなと思いました。
- ・不登校、声掛け等、いろいろなテーマが各グループで出ました。人の数だけ問題は多種でした。もっと聞きたかったです。グループの話し合いも良かったです。パネリストの方の温かいまなざし、言葉がけ、心からお話が聞けて良かったと思います。一人の人の心の広がり、行動と継続の大切さを実感しました。

- ・地域の大人たちの、子どもを見守る暖かい眼差しを感じました。コーディネーターの高木先生のお話、もっと聞きたいと思いました。
- ・パネリストの丁寧な解説が分かりやすかった。
- ・子どもを取り巻く状況の厳しさを話し合えてよかった。
- ・子ども＝他人との関わり、ここまでとは知りませんでした。近所の子供達に積極的に挨拶をして関わろうと改めて思いました。
- ・少しずつですが、子供達に対して自分ができることを考えて、積極的に行動ができるようにしていきたいと思います。
- ・いじめコーディネーターの対応があることを知りました。それでもいじめが増えていることの怖さ、ストレスが多すぎるのでは、と思いました。
- ・学校と地域が協力して、挨拶をする運動を広げていく事の大切なのではないかと。
- ・近所の道を歩いている人にも、挨拶や声掛けをしていくことで、不審者を寄せ付けず、防犯につながるのではないかと。
- ・子どもの安全な場所をどのように作ったらいいのか。
- ・うちの町内会には集会所すらないのでどうしたらいいのか。
- ・最近の「子ども事情」についてもっと色々な事例を聞けるのかと思っていました。
- ・子どもを含めた他人との間合いの取り方のむずかしさ。意識を持っていてもどのように他人（子ども）と関わるのが…。
- ・家庭の中での大事なことは挨拶だと思います。家庭の挨拶が周りにもつながっていくと思います。
- ・最近の子ども事情についての事例が欲しい。内容が浅い。最近の子ども事情を知りたい人にとっては、拍子抜けなのでは？
- ・お話の中で専門用語をなるべく使わず、みんなが分かる言葉で説明してほしい。
- ・子どもも大きくなり、自分も小学校、中学校のOBに入り、お祭りや学校の行事に参加している。（子どもには、まだやってるのなんて言われるが）私自身学校がすきで、子供達が好きです。良いセミナーになったと思っています。自治会でも子供達の見守りをしています。
- ・元々は乳児・幼児の育て方が根にあるのではないかと。
- ・最近の子ども事情はよく分からなかった。具体的なことが聞けなかった。挨拶は基本で大事なことだと感じた。
- ・地域の違いが様々。
- ・地域によって子供達の様子もずいぶん違うので、地域性に応じた対応が必要だと感じた。
- ・みんな熱心でとても勉強になりました。
- ・問題意義を持ったたくさんの方のお話を聞くことができ良かったと思います。
- ・立場の異なる意見を聞けました。
- ・地域で子どもたちのために支援していただけることを感謝します。
- ・地域の方と色々な話ができて良かったと思います。

- ・他の地域の方々とお話できたことはとても有意義でした。情報の共有の大切さ、地域の見守りの継続が必要と感じました。
- ・若いお母さんたちの気持ちが少しわかった。その時間は人生で短いと思う。長い目で愛をもって。
- ・もっとたくさんの現状を知りたいと思いました。貧困の状況など本当なのかピンときません。居場所を作ってあげたい。でも具体的イメージがまだ湧いてきませんでした。
- ・地域の方々が様々なルートを通じて、子供達と関わりを持ちたい、何らかの形で子育て支援に手を差し伸べたい、と考えていらっしゃることが分かり、心強く感じました。
- ・社会資源を活用する。つまり住民を活用する。グループの種々の活動状況や組み方、手順や方法等参考になる意見報告がありました。
- ・流れの進め方がとても良かった。テーマは身近ですが、内容は盛りだくさんなのでもう少し絞って良かった。
- ・挨拶や声掛け、大事なことだと感じました。不登校の子供さんを持つ親の生の声を聞くことができ、何か自分にも支援ができるのか、と考えさせられました。
- ・多数の方が子どもの未来について考え、行動していることがわかりました。
- ・もう少し具体的な話を聞きたかったです。時間が足りないですね。

5 皆さんが日常で感じる福祉について、今後のセミナーで取り上げて欲しい、聞いてみたいといったものがございましたらご自由にお書きください。

- ・障害をもつ子供や、障害をもつ親とのつながりや悩みに関心をもつことが、身体障害者の自立支援、住まいの状況、地域との関わりについてなど。
- ・動物ボランティアについて知りたい。県では犬猫の殺処分ゼロとなりましたが、そのNPOの活動が欠かせない。その後の様子や、セラピードッグや、介助犬の話し普及の方法など。
- ・子どもの貧困、子ども食堂、フードバンクについて、川崎の状況が知りたいです。
- ・川崎の子どもたちが必要とすることが何なのか知りたい。
- ・貧困のなかでの子どもの将来が幸せであるような社会にしてほしい。そのための行動をどうしたらよいか知りたい。
- ・最近の子ども事情についてもっと深く考えたい。どうしたら良いのか。
- ・グループ討議をしていただき、色々な方々のお話が聞きたい。
- ・小学校でも5年生の福祉について学習しています。また校外学習でも社会人としてのルールを守ることや、困っている人への支援についても学びます。学校の学びの効果はさほど大きいものではありません。日常性や地域でのまなびが大きな効果を生むと思います。
- ・虐待について。
- ・子どもの学校給食について。

- ・虐待をする親の育ち方など。
- ・名札が見えません。もっと上部をお願いします。
- ・教育と福祉に予算を十分にあててほしいと思います。
- ・子どもが現在、置かれている状況をもっと知りたい。
- ・いつか相談に伺います。支援、ボランティアがんばります。
- ・子どもの貧困、等々。